

## 東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ



## 下町エリアのデザインが決定しました。

銀座線すべての駅を5つのエリアコンセプトに沿ってリニューアルします。

東京メトロ(本社:東京都台東区 社長:奥 義光)では、東京メトロ銀座線開業 90 年(2017 年)そして 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、銀座線全駅のリニューアルを進めるため、銀座線の魅力向上に寄与する様々なアイデアを公募するデザインコンペを実施しています。

このたび、2012 年 12 月から実施した下町エリア(浅草～神田間)の 7 駅のデザインが決定しましたのでお知らせします。

今回の 7 駅のデザインについては、コンペ入賞作品のアイデアや想い、また、お客様へのヒアリング結果等に基づき、駅デザインの基本方針を整理し、下町エリアとしての地域性・特徴をデザインで表現することで統一感を持たせ、「“まち”の地下1階」として“まち”の近さやつながりが感じられるような空間づくりを行いました。また、各駅が持ち合わせている歴史的な背景や立地環境等の個性をデザインで表現し、新たな銀座線の駅、地下鉄への期待感が感じられるような空間づくりを行いました。

今後、2015 年から順次工事着手し、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックまでにバリアフリー化等を含め下町エリア 7 駅のリニューアルを完了します。

駅デザインの詳細は、別紙のとおりです。



クラシカルなフォルムと列柱のリズム、床の絨毯敷きモチーフパターンによりアカデミックなイメージを表現し、木製回転式改札と現行の自動改札機の対比を演出しています。

銀座線上野駅改札口（浅草方）

## ■デザインコンセプト

【下町エリア デザインコンセプト】エリアの地域性・特徴をデザインで表現します。

### 土地の記憶

親しみと愛着が増すほっこり感

1927年に浅草～上野間で東洋発の地下鉄として開通した下町エリアとしての貴重な歴史を活かし、当時の雰囲気から親しみを感じられるエリアとして位置づけています。

江戸時代から庶民の参詣娯楽の場として栄えてきた歴史、美術館とともに西洋への憧れを育んできた歴史、戦後の露店、屋台とともに発展した歴史、秋葉原の電気街とともに未来への夢を育んでいった歴史などの各駅周辺地域の「土地の記憶」を夢・憧れとして愛着を感じるエリアとして駅をデザインします。

## 【デザインの表現手法】

### ・開業当時の構造体等をデザインの中に取り入れます。

1927年の開業当時から各駅に残るリベット柱やヴォールト天井、壁面タイル等を活かし、当時の雰囲気が感じられる駅とします。

### ・下町の暖かさ、ほっこり感を感じられる素材を用います。

木調や織物など下町の特徴を表す素材を活用し、利用者が下町の暖かさ、ほっこり感を感じられる駅とします。

### ・下町の「懐かしさ」を演出します。

落ち着いた光、柔らかい光を用いて駅の空間を演出し、今も変わらずに佇む下町の懐かしさを感じられる駅とします。

### ・各駅周辺地域に受け継がれている町並み、文化、歴史等を各駅のデザインに取り入れます。

各駅周辺地域の町並み、文化、歴史などの受け継がれてきている要素を各駅のフォルムや素材として活用し、各駅の土地の記憶が感じられる駅とします。

【ステーション デザインコンセプト】各駅が持ち合わせている個性をデザインで表現します。

浅草	田原町	稲荷町	上野	上野広小路	末広町	神田
祭りの街	道具の街	佇む街並み	美術館のある街	上品な横丁	電気の街	昭和のオフィス街

※詳細は各駅のデザイン参照

## ■各駅のデザイン

### 【上野駅】『美術館のある街』（2015年～2017年完成予定）

上野の街の背景となる、美術館のある街、桜を駅で表現しています。

ホームは、復刻版車両（1000系）をはじめとした銀座線の歴史にフォーカスしたメイン展示室とし開業時のクラシカルな雰囲気を醸し出す演出をしています。

コンコースは、文化的施設や華やかな街をやさしく包む、桜の舞う木立や並木を柱や天井で表現するとともに、古くから残る構造躯体を遺構ディスプレイとして間接照明で演出します。



石造りの美術館をイメージしたプラットフォーム



桜の木立をイメージしたコンコース（渋谷方）

【浅草駅】『祭りの街』(2015～2019年完成予定)

寺社の雰囲気意識した周辺の街並みに合わせて、べんがら色をベースとしたダークグレーで引き締めることで、周辺環境に溶け込む色調としました。

改札口等は、隣接する地上部で開催される祭り、例えば、『墨田公園桜祭り』『隅田川花火大会』『三社祭り』テーマとした展開にしました。

また、銀座線各プラットフォーム階にエレベーターを設置し、都営浅草線との乗換向上を図ります。



寺社のべんがら色が映えるプラットフォーム



桜をイメージした改札口

【田原町駅】『道具の街』(2015～2017年完成予定)

道具街としての門前、下町としての「手仕事感」を併せ持つ印象を与えるため、クールな金属にあたたかも織物のような手仕事感のある表情を持たせた駅としました。改札口は光天井とともにやわらかい色味の金属とガラスにより、下町らしさと田原町らしさを合わせて表現しました。



金属の素材感が引き立つプラットフォーム

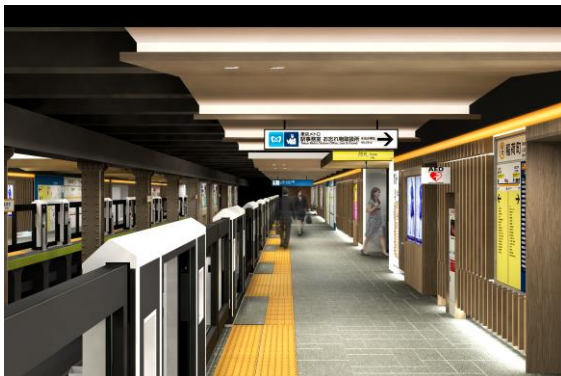


下町・田原町らしさを表現した改札口

【稲荷町駅】『佇む街並み』(2015～2018年完成予定)

長屋の面影を残す歴史的家並み、点在する老舗や様々な工房の「職人氣質」。そこかしこに残る「木」を素材のベースとして、織り込まれた歴史の街の玄関として駅を表現しました。

また、各ホーム階から地上までエレベーターを設置し、利便性の向上を図ります。



切妻屋根の家並みをイメージしたプラットフォーム



温かみのある木調の壁で構成する改札口

【上野広小路駅】『上品な横丁』(2015～2019年完成予定)

コンコースは、百貨店やジュエリー店の魅力的かつきらきら輝く宝飾の「きらびやかさ」、演芸場及び呉服店の魅力的な織物に多用されている紋様の華やかさなどを用いて街のにぎわいを表現しています。

ホームは、様々な広告や掲示物で活気ある個店のにぎわいを表現するとともに天井については、黒色で仕上げ、存在感を消し、空間を広げる演出をします。

また、浅草方面ホーム階から地上までエレベーターを設置し、これにより両ホームのエレベーターによるワンルート化を図ります。



織物の紋様を用いたコンコース



黒色を用いたプラットホーム

【末広町駅】『電気の街』(2015～2018年完成予定)

世界的に有名な秋葉原の北の玄関口として、「外国人や観光客」に対して訴求力のある「出迎いのデザイン」として、「electric gate」をコンセプトとし、ホームは照明器具による実際の光「実の光」と鏡面仕上に反射する「虚の光」の交錯により表現していきます。改札口はゲート状のデザインと躍動感ある光によるアイキャッチを設け、視認性を向上させます。

また、渋谷方面ホーム階から地上までエレベーターを設置し、利便性の向上を図ります。



ディスプレイをイメージしたプラットホーム



ゲート状の改札口

【神田駅】『昭和のオフィス街』(2015～2017年完成予定)

新しいものと古いものが混在する神田の「まちなみ感」を表現。コンコースは、壁のタイルにより下町のほっこり感を表現、ホームは歴史的遺構である鉄鋼框等を照明で演出します。

また、渋谷方コンコース階にエレベーターを設置し、JR線との乗換及びホームへのエレベーター1ルート整備を図ります。



下町のほっこり感を表現したコンコース



柱（鉄鋼框）をガラスで仕上げたプラットホーム